

「葛飾区少年の主張大会」が 開催されました

令和4年11月19日(土)、かつしかシンフォニーヒルズアイリスホールにおいて応募総数367人の中から選ばれた小学生19人・中学生8人、計27人が、それぞれの主張を発表しました。結果は次のとおりです。

●小学生の部

最優秀賞

蜂谷 凜紗(奥戸小6年)

「平等な世の中に」

高橋 終風(水元小6年)

「言葉の力」

優秀賞

田村 優明(小松南小6年)

「自然と向き合う事の大切さ」

石亀 利宝(柴又小6年)

「日がさを使っちゃいけないの?」

古川 遼乃丞(飯塚小6年)

「言葉の使い方」

樋山 瑠斗(川端小6年)

「ぼくの将来の夢」

白井 みり(亀青小6年)

「本当に大切なものを大切にするために」

入選

下田 真愛(白鳥小6年)

神成 咲希(青戸小6年)

鈴木 涼花(こすげ小6年)

倉持 佳典(鎌倉小6年)

秋枝 律駆(新宿小6年)

井口 詠風(東金町小6年)

大屋 清城(梅田小6年)

細矢 一樹(宝木塚小5年)

早水 千紗(渋江小6年)

伊藤 一心(堀切小6年)

吉村 風香(金町小6年)

難波 有由愛(上小松小6年)

●中学生の部

最優秀賞

望月 香愛(水元中2年)

「私が思うこと」

優秀賞

今井 小雪(中川中3年)

「だれかのために」

山田 りる(水元中1年)

「インクルーシブ教育を目指して」

入選

大橋 彩乃(中川中3年)

細井 悠生(葛美中3年)

齋藤 夏葉(青葉中3年)

榎原 優希(立石中3年)

馬場 みく(立石中3年)

(敬称略・同一賞内の順番はプログラム番号順)



地域教育課 0(5)654(8)482

中学生の部・最優秀賞

私が思うこと

水元中学校2年 望月 香愛

「きつもうい」小学生の時、クラス
の人の声が耳に入ってきました。あ
まり話の内容は聞こえなかつたけ
れど、「障害者、きつもうい」という言
葉は、はつきりと聞こえました。皆
さんは「障害者」という言葉を聞い
た時、何を思い浮かべますか。

私の弟には知的障害があります。
私が初めて弟に会ったのは、生まれ
た一か月後でした。弟は生まれてす
ぐに保育器に入り、そこから新生児
集中治療室に入ったからです。現在
の年齢は十二歳ですが、知能は三歳
児程度だと言われています。弟はい
つも元気で、寝る時以外は、ずっと
走り回っています。何を喋っている
のか分からない時もあるけれど、一
緒にいただけでみんなが楽しくな
る、そんなかけがえのない存在です。
障害といってもたくさん種類
があり、全く同じ人などいません。
大きく分けると、身体障害、知的障
害、精神障害があります。身体障害
は周りに気づかれやすく、そのため
周りも手助けがしやすいです。車い
すに乗っている人が段差を上るの
に苦労していたら、私たちも声をか
けやすいのではないのでしょうか。し
かし、知的障害や精神障害は、見た
目だけでは気づかれにくいいため、突
然叫びだしたりすると周りも近づ
きにくくなります。私も弟と一緒に

歩いていると周りの視線を感じる
ことがあり、決して弟のことが嫌に
なった訳ではないのですが、一時期、
周りにどう思われているのが怖
くて、弟の隣を歩きたくないと思っ
ていたことがあります。

こんな世の中はおかしいと幼い
ながらに思いました。なぜ同じ人
間を差別するのか。知らない他人の
ことを「気持ち悪い」と言てまとめ
てしまっているのか。私は障害のあ
る人に否定的なことを言う前に、そ
の人がどういう人なのか知ってほし
い、表面的なものだけを見て、それ
だけでその人を判断してしまわな
いでほしい、と思うのです。負の感
情は心の中にしまっておけばいいの
に、それを発言して傷つく人がいる
かもしれない、と考えないのでしょ
うか。そうでなければ、傷つしてい
る人を見て楽しんでるのでしょ
うか。いいところを知った上でそう
いったことを感じたのなら、思った
ことをそのまま口にするのではな
く、二度相手の気持ちを深く考えて
みるべきです。これは障害に限った
話ではないと思います。

弟は言いたいことや主張したい
ことが頭の中にあっても、自分の思
いをうまく言葉にすることができ
ません。この前、弟が突然怒り出し、
家のテレビを壊してしまっただけで
が、理由を聞いても、

「僕が…投げちゃったから…僕が…」
と泣きながら言い続けるだけで不
機嫌になった理由が分かりません
でした。私たちは、感情のままに
思ったことを言葉にできたとしても、

相手のことを思い、わざと口に出さ
ないように自分を制御することが
できますよね?しかし、弟は制御で
きず、最終的に相手を傷つけてしま
うことがあるのです。このようなこ
とを理解してほしいです。

私は幼い頃から、私たちの家系に
は弟以外に障害者はいないので、な
ぜ弟には障害があるのか疑問でし
た。母はこう言っていました。「障害
は遺伝ではなく、神様が、この能力
がこの子には必要だから授けてく
れたんだよ。」この言葉を聞いて、と
てもしつくりきました。私たち家族
に与えてくれている弟のパワーは
ものすごいもので、他のものに変え
ることは絶対にできません。

私はこれまで、弟を通して様々な
病気の方と接する機会があり、た
くさんの出会いと色々な経験をす
ることができました。今この世の
中が障害者に対してできることは、
もともとたくさんあるのではないで
しょうか。障害者の「害」の漢字をひ
らがなにするべきだという意見が
ありますが、そんなことよりもっと
当事者に目を向けてほしい、私はそ
う思います。

まだまだ障害者に関することは
タブー視されており、本人たちだけ
でなく、その家族も差別されること
すらあります。

こんな世の中の中の風潮は止めるべ
きです。そのためには皆さんが関心
を持つことから始めてほしい、と私
は思います。理解ある社会を、私た
ちが作り上げていくべきなのでは
ないでしょうか。